

想定価格帯サマリー

Legacy Bridge Standard — Gate 1 成果物

文書ID	LB-G1-02	バージョン	v1.0
作成日	2026年8月19日	対象Gate	Gate 1
作成者(役割)	業務・投資診断担当 / QA・受入設計担当	レビュー担当(役割)	プロジェクト責任者
機密区分	顧客提出用	変更履歴	v1.0 2026年8月19日 初版作成

CONTENTS / 目次

1. 想定初期価格帯
2. 想定月額価格帯
3. 想定対象範囲
4. 価格帯の前提
5. 未確定事項
6. 対象外
7. 上限を超える可能性
8. 確認欄

01

想定初期価格帯

700万円～900万円(税別)。上限レンジ: 950万円。本価格帯はGate 1・2の累計200万円を含む総額です(Gate 3以降へ進む場合、200万円は内数であり二重加算されません)。

02

想定月額価格帯

項目	下限	上限
基盤運用	月額10万円	月額12万円

項目	下限	上限
有人保守	月額10万円	月額14万円
Write本番運用時の合計	月額20万円	月額26万円

03

想定対象範囲

- 対象基幹: IBM i1システム / 業務領域: 受注・在庫照会と受注訂正
- Read API候補: 在庫照会・納期回答・受注状況(3本)
- Write API候補: 受注数量訂正(1本・承認つき)
- 画面候補: 照会ポータル・承認画面(2画面)
- 外部接続: 社内・営業所VPNのみ(1系統)

04

価格帯の前提

- 受注訂正は既存業務プログラム(JYUCHU-UPD)経由で更新できること
- 読取・検証用データと担当者(週2時間)の提供
- 夜間バッチ時間帯のWrite停止運用を許容
- セキュリティ審査が標準日程内で完了

05

未確定事項

- JYUCHU-UPDの引数仕様(価格帯へ中の影響)
- VPN新設の要否(上限側へ+30万円程度の影響)
- 監査ログ保管年数(運用月額へ影響)

06

対象外

OCR/FAX自動読取・複数基幹・会計等の高リスクWrite・24時間有人対応・現地常駐。

07

上限を超える可能性

- 超える条件: Write対象が複数トランザクション化する場合、外部接続先が追加される場合
- 対象縮小案: Write APIを見送りRead3本+画面2つで先行稼働(この場合の価格帯は700万円近傍)
- 継続しない選択肢: Gate 2完了時点で終了できます(支払いは完了Gateまでの累計のみ)

08

確認欄

役割	氏名	日付
CET作成者(業務・投資診断担当)		2026年8月19日
技術確認者(API・アーキテクチャ担当)		2026年8月19日
顧客確認欄		